北滿に派遣された 岡山醫科大學醫療特技隊の報告書

(本報告の要旨は昭和16年9月19日岡山醫學會通常例會に於て發表したものである.)

岡山醫科大學助教授
和田 直
外 學生6名

1. 緒言

今夏吾々一行7名は滿洲建設勤勞奉仕隊醫療特技隊に參加して些か勤勞奉仕をし，併せて吾々自體の心身錬成に努めたので玆に其の概略を報告しやうと思ふ.

診療玆に諸種調査に對して豫め相當の計畫がたてられてゐたのであるが次に述べる理由から充分な目的を達する事が出來ず殘念に思つた. 即ち第1に當初の計畫では現地奉仕期間は30日以上の豫定であつたが實際には時局の關係上現地到着後間もなく引上げ命令が來て落着かない10日間の奉仕にすぎなかつた事である. 第2には配屬先が3箇所で隊員2名が1箇所を受持つた關係上雜用に追はれてしまつた事. 第3の理由は配屬先は孰れも青年義勇隊訓練所で，比較的强壯な青年ばかりが收容されて居り從つて調査の對照としては單調と言ふ可く又10月から翌年の4月までは冬眠狀態であるのに反し夏期は多忙を極め調査を强制し得なかつた事である. 尙ほ一行の中吉田弘君は往路羅津で蟲垂炎に罹患し即日土地の病院で手術を受けた. 術後の經過は幸に順調で7月28日退院し直ちに內地へ歸還した.

2. 班の編成，日程竝に配屬先

(イ) 班の編成

指導教官

助教授 (北山內科) 和田 直

隊員 (6名)

班長 4學年學生 千坂 正
4學年學生 堤 健二
4學年學生 長田不二彥
3學年學生 三島輝章
3學年學生 兒玉正行
3學年學生 吉田 弘

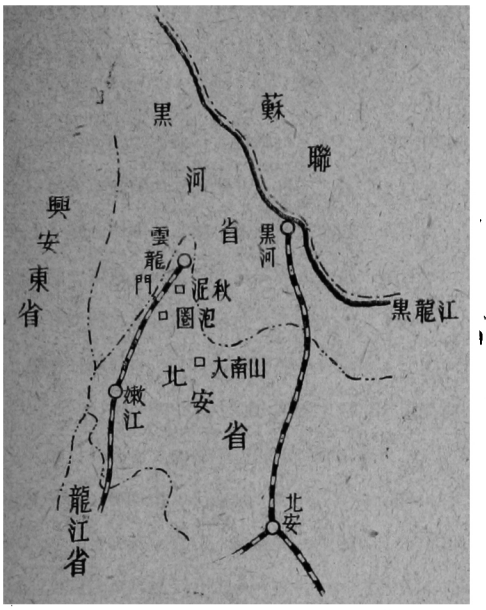
(ロ) 日程

日程の概略は次表の通りである.

6月28日	岡山出發
6月30日	內地訓練のため千葉縣栗山廠舍へ幹部集合
7月2日	〃 隊員集合
7月6日	栗山廠舍出發
7月7日	敦賀出發
7月10日	羅津着
7月11日	羅津出發
7月13日	現地着
7月25日	現地出發
7月26日	ハルビン着 (2泊)
7月29日	新京着 (1泊)
7月31日	大連着 (3泊)
8月3日	大連發
8月6日	神戸上陸・歸還

(ハ) 配屬先

配屬先は滿洲國北安省嫩江縣內の甲種大南山訓練所，乙種泥秋訓練所 (以上2箇所は訓練本部取扱) 竝に圈泡訓練所 (滿洲拓殖公社取扱) であつて，之等3訓練所を左記の如く分擔した.



大南山訓練所 {千坂正 / 兒玉正行}

圈泡訓練所 {堤健二 / 長田不二彦} (和田)

泥秋訓練所 三島輝章 (和田)

この嫩江縣は樺太の北境界線即ち北緯50度に近く位置してゐる．大興安嶺に近いため，低い丘陵が起伏してゐるが內地で見る樣な山は殆ど見られず（ただ泥秋近傍に2，3あるのみ）一面に2，3尺にも延びそろつた雜草が繁茂してゐる．雜草の中に色とりどりの花が綺麗に咲いて自然の花園の樣である．菖蒲，罌粟，百合等が咲いてゐるかと思ふと桔梗，月見草の花が開いてをり，雲雀が囀つてゐるかと思ふと秋の蟲が鳴いて居て，春と夏と秋が一緒に來てゐる樣に思へた．滯在中の天候と氣溫は次表の樣である．

昭和16年7月中及下旬泥秋地方氣溫竝に天候

月　日	天　候	氣溫 (°C) 最高	氣溫 (°C) 最低
7月13日	快晴	28.5	15
14	〃	31	15
15	〃	30	15.5
16	小雨	27	18.5
17	快晴	29	16
18	〃	27.5	17
19	〃	25	10.5
20	〃	25.5	10
21	雨	20	13
22	嵐	16	14
23	雨		
24	〃		
25	〃		

岡山地方もこの時期には涼じかつた樣であるが

昭和16年7月中及下旬岡山市天候竝に氣溫

月　日	天　候	氣溫 (°C) 最高	氣溫 (°C) 最低
7月13日	晴	26.2	17.7
14	曇	26.5	17.4
15	小雨	20.5	17.4
16	雨	24.9	19.5
17	小雨	27.0	20.0
18	晴	25.5	17.7
19	曇	24.6	20.0
20	微雨	26.9	20.1
21	〃	29.1	21.8
22	〃	33.9	23.6
23	快晴	30.7	21.5
24	微雨	31.1	24.7
25	雨	30.5	24.2

兎に角蒸暑いといふ事はなく室內に居れば晴天の日中でも汗が浸む樣な日はなかつた．特に最低氣溫が低いため夜は毛布2，3枚もかけないと寒く，雨の日は日中でも「ジャケツ」をまとつた程である．井戸の壁には氷が丁度「コンクリート」の樣に

くつついてゐた．例年ならば快晴續きであるそうであるが，表にも示した通り滞在期間中雨がよく降つて內地の梅雨を思はせる樣であつた．夜明けは3時，日沒は8時半頃，全く暗くなるのは10時頃であつて午後9時に消燈の「サイレン」がなるがそれを過ぎてからそろそろ「ランプ」に火を點じる．訓練所附近に部落は殆どなく往復の旅行中を除けば滿人の顏を見る事はあまりなかつた．

3. 訓練所の一般狀況

まづ餘談ではあるが青年義勇隊訓練所といふものの概略を述べたい．

昭和6年卽ち滿洲事變以後滿洲開拓事業が創められ，12年よりは日滿兩國政府の重要國策の一として開拓農民の大量送り出しが計畫されたが，この外に昭和13年度から滿洲開拓青年義勇隊を組織して每年30000人程度を送り出すといふ企てが立てられたのである．この義勇隊は茨城縣內原訓練所で約2,3箇月間の內地訓練をうけて渡滿し現地訓練所に入所する．現地訓練期間は基本訓練1箇年，實務訓練2箇年，計約3箇年といふ事になつてゐる．基本訓練とは滿洲の一般事情に通せしめ，氣候，風土，衣食等に親ますのが目的である．實務訓練所では開拓民となるに必要な技術を修得させるのであるが，この實務訓練所は甲，乙，丙の3種に分れてゐる．（將來は甲乙丙の區別をなくするそうである.）

甲種訓ろ所は訓練終了後其の訓練所地區に集團開拓民として定住し，集團開拓農村を組織するものを，乙種訓練所は2箇年の實務訓練終了後開拓民として他地方へ移住して開拓團を組織す可きものを收容してゐる．丙種訓練所は訓練生の資質に應じ特種訓練を施すのを目的とするもので，義勇隊又は開拓團の各種の特種技術者例へば農工品製作者．教員，看護員等を養成するのである．

昭和13年に渡滿した第1期訓練生20000餘名の中，不幸雄圖半にして殉地したもの，其の他兵役，特技訓練修學等で退出したものを除く17000名は3箇年の猛訓練を終了していよいよ待望の開拓團に移行する事になり，本年10月1日第1回開拓團移行式が盛大に擧行された事は既に新聞の報じた通りである．吾々の配屬された訓練所の中，大南山及び圈泡訓練所は甲種で，訓練を終了したので上述の如く近々それぞれ訓練所地區で開拓團に移行する筈であり，泥秋訓練所は乙種であるので更に1年間實務訓練をうけて他の地域に移動し開拓團を組織する事になつてゐる．

次に3訓練所の編成であるが大南山には約230名，圈泡には150名，泥秋には250名の訓練生が居り，1訓練所に所長以下幹部が5乃至6名，大南山と泥秋には醫師が各1名，泥秋には裁縫，炊事の指導など訓練生の母代りをする寮母が2名配屬されて居る．訓練生は一般に非常に質實剛健である．衣食住共極めて質素且原始的な生活に甘んじ，一般に考へる慰安といふものが全然なく，而も匪賊情報の今日と雖も尙ほ全然なしとしない狀態で，每日相當の激勞を繰返し，孜々として土に向つて信念の鍬を打ちおろしてゐる姿は吾々に大いなる感銘を與へずにはゐなかつた．耕作の餘暇に彼等は乘馬，銃槍，劍術，手擲彈投げ等の稽古をして居り實に頼母しく思つた．御聞した事であるが，前述の特種技能に授ける丙種訓練所を志望する者が尠く，訓練生達は「俺は立派な百姓になる可く渡滿したのであつて特殊技術を修めに來たのでない」と言つてゐるそうである．一面的にしろ彼等の決意が覗はれて愉快に思つた．訓練生は氣が落んで情操方面に缺けてゐるといふ事を屢々耳にするが之は現在の樣な邊境にある彼等に對し餘り冷淡な批評であると思ふ．彼等の日課は訓練所により多少の差異があり又閑忙の時期により大いに變更されるのであるが，吾々の滯在中泥秋訓練所の日課は次の通りである．

日　課　表

起　床	午前5時	晝　食	12時
點呼禮拜	5時30分	作業始め	午後2時30分
食前作業	1時間	休息	30分間
朝　食	7時	作業終り	6時
作業始め	8時30分	禮　拜	
休息	30分間	夕　食	6時30分
作業止め	11時30分	消　燈	9時

就眠時間は8時間で晝食後午睡をする事になつてゐるが，午睡は殆どせず又前にも述べた通り午後10時に漸く暗くなつて午前3時には夜が明けるので，一般に訓練生のとつてゐる睡眠時間は平均1日6時間程度と思へる．日課表の作業とは殆ど專ら農耕である．しかし11月から翌年の3月末までは耕作不能なので，この時期に乙種農學校程度の學科を修め，時には薪木を伐りに出かけ或は狩獵をするのだそうである．四季を通じての勞働狀態の概況は次表の通りである．

	春	夏	秋	冬
勞働時間	9	9	9	4
主なる勞働の內容	耕作播種	草狩作物ノ世話	收　穫	伐　採
勞働ノ程度	强	中等度	强	輕
就寢時刻（午後）	9時	9時	9時	9時
起床時刻（午前）	6時	4—5時	6時	8時
就眠時間	9時間	7—8時間	9時間	11時間
午睡時間	1	2	1	
休　日	雨ノ日	雨ノ日	雨ノ日	

次に耕作狀況について述べる．

この地域一帶は「トラクター」で耕すと簡單に耕地とする事が出來，しかも地味肥沃で今後數年間は餘り施肥せずに相當の成績を擧げ得る見當との事である．耕地は畑ばかりで水田は計畫されてゐるのみ．一訓練所の耕地は大體200町歩程度で，作物は麥類（大・小・燕麥）・大豆・粟・馬鈴薯，其の他生瓜・西瓜・「トマト」・菜葉類など內地で普通見かける殆どすべてが作られてゐる．吾々の行つた時には麥は實によくみのつてゐて遠からず刈取る樣になつてゐたが野菜類はまだ收穫し得る程度には至つてゐなかつた．尙ほ以上の耕作の外畜產も計畫されてゐるがまだ見る可き狀態には至つてをらず，例へば大南山訓練所では豚9頭，牛6頭，圈泡訓練所では豚6頭，牛2頭の程度である．

4. 訓練所の衛生施設

3訓練所には孰れも醫務室があり，大南山及び泥秋訓練所には現地開業醫が1名宛配屬されてゐる．尙ほ各訓練所には2名宛看護員が居り軍隊の衛生兵の樣な役割を擔當してゐる．各醫務室の設備は豫想外に充實して居り，顯微鏡，血球計算器，腰椎穿刺器，小手術用具等もあつて一般治療には事缺かない．又10名程度の入院設備も出來てゐる．隔離室は設けてない．藥品類も必要なだけは準備されて居る．以上の樣で醫師の居る訓練所では患者を出來得る限り所內で處置するが重病或は特殊な疾病（例へば齒科）は最寄りの大訓練所病院乃至は訓練所關係の最高醫療機關であるハルビン中央醫院へ送る．この外增健訓練所といふのが大石橋にあつて全滿訓練所の虛弱者或は病後衰弱者を收容して居り又結核療養所が內原に設立される豫定だそうである．醫師は一般に不足勝で現地訓練所關係のみでも現在50名以上も缺員との事である．

5. 衣食住に關する調査

（イ）衣服並に夜具

衣服並に夜具類は大體必要なだけは給與されて居り例を大南山訓練所にとつてみると次表の通りである．

大南山訓練所1年間配給衣服類

		數	材料	重さ(kg)	形
上衣類	夏	1	茶色「スレンヂ」	0.6	乘馬服
	冬	2	木綿「スフ」眞綿	1.2	乘馬服
「ズボン」類	夏	2	茶色「スレンヂ」	0.6	乘馬服
	冬	2	木綿「スフ」眞綿	1.2	乘馬服
下着類	夏	上下2組	木綿	0.4	
	冬	上下2組	白「ネル」	0.7	
雨合羽		1	木綿	3.0	
防寒外套		3年=1	木綿綿入れ	5.0	
其他		戰鬪帽(1) 運動靴(2) 地下足袋(3) 防寒手袋並=靴(各1)			

大南山訓練所1年間配給夜具類

	數	材料 内側	材料 外側	重サ(kg)	大サ(m)
敷蒲團	1	木綿	木綿	4	0.7×1.5
掛蒲團	1	木綿	木綿	4	1.0×1.5
毛布	1	混毛		2	2.0×2.0

（ロ）榮養

我々本仕期間中の獻立を表示しやう.

榮養調査表

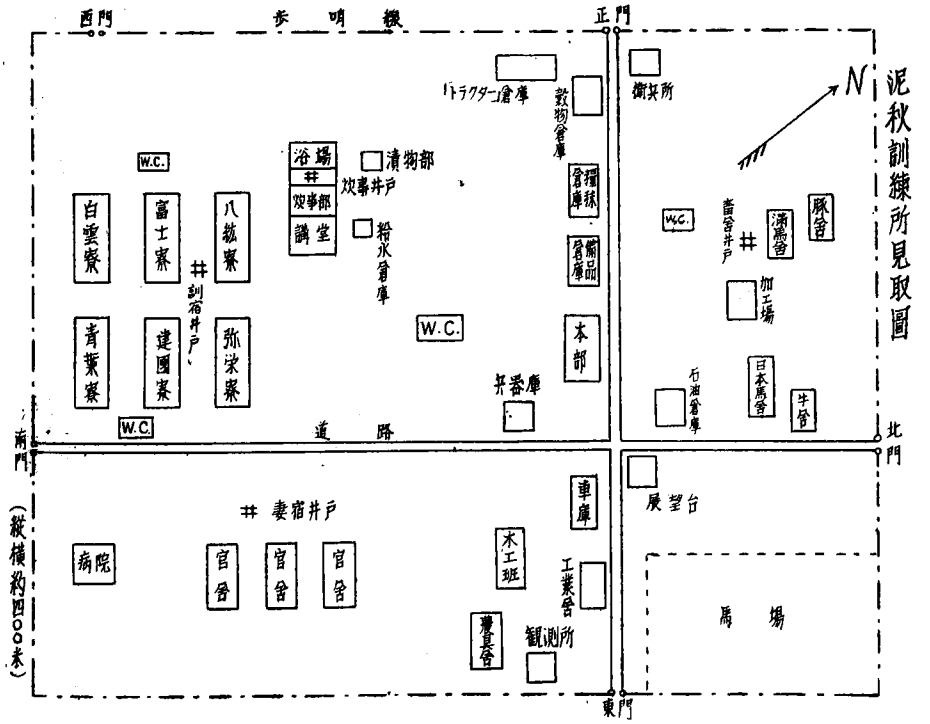
北安省嫩江縣圈泡訓練所　　昭和16年7月24日　　岡山醫大. 堤. 長田

月	日	朝食(材料) 主食物(kg)	朝食(材料) 副食物(kg)	中食(材料) 主食物(kg)	中食(材料) 副食物(kg)	夕食(材料) 主食物(kg)	夕食(材料) 副食物(kg)	平均 1人1日(Cal.)	平均1日1人宛 蛋白量 動物性(g)	蛋白量 植物性(g)	脂肪量(g)	平均1日1人宛食費(錢) 主食物	副食物	合計
7	15	半搗米 42	味噌汁 味噌 5.5 切干 5.0 煮干 0.7	半搗米 46	味噌汁 味噌 5.5 チシヤ 12.0 煮干 0.7	半搗米 46	味噌汁 味噌 5.5 チシヤ 8.0 若布 5.0 煮干 6.2	3311		93.7	13.1	41.6	13.1	54.7
7	16	半搗米 42	味噌汁 味噌 6.0 切干 5.0 煮干 0.7	半搗米 46	味噌汁 味噌 6.0 チシヤ 12.0 若布 5.0 煮干 0.7	半搗米 37	味噌汁 味噌 6.0 葱 8.0 ソバ 15.0 煮干 0.7 カツヲ 0.7	3450		96.5	13.5	38.7	14.8	53.5
7	17	半搗米 42	味噌汁 味噌 6.0 切干 5.0 煮干 0.7	半搗米 46	鰯味噌汁 味噌 13.0 鰯 32.0 砂糖 5.0 漬物 62.0	半搗米 46	味噌汁 味噌 6.0 若布 5.0 葱 5.0 豆 3.0	3575	30	97.2	29.4	41.6	21.0	63.6
7	18	半搗米 42	味噌汁 味噌 6.0 白菜 13.0 煮干 0.7	半搗米 46	味噌汁 味噌 6.0 コンニヤク 15.0 チシヤ 10.0 若布 5.0	半搗米 46	味噌汁 味噌 6.0 恭菜 12.0 若布 3.0	3267		97.2	13.3	41.6	16.9	58.5
7	19	半搗米 42	味噌汁 味噌 6.0 切干 5.0 煮干 0.7	半搗米 46	味噌汁 味噌 6.0 白菜 12.0 若布 5.0 煮干 0.7	半搗米 46	味噌汁 味噌 6.0 ホーレン草 10.0 若布 5.0 煮干 0.7	3367		101.7	14.0	41.6	16.9	58.5
7	20	半搗米 42	味噌汁 味噌 5.0 白菜 13.0 煮干 0.7	半搗米 46	味噌汁 味噌 6.0 フランス草 12.0 若布 5.0	半搗米 46	味噌汁 味噌 6.0 若布 5.0 チシヤ 8.0 煮干 0.7	3364		94.3	13.5	41.6	15.2	56.8
7	21	半搗米 42	味噌汁 味噌 6.0 若布 5.0 切干 5.0 煮干 0.7	半搗米 46	味噌汁 味噌 6.0 若布 5.0 切干 5.0 煮干 0.7	半搗米 46	味噌汁 味噌 6.0 若布 5.0 切干 5.0 煮干 0.7	3353		108.6	15.9	41.6	22.7	94.3

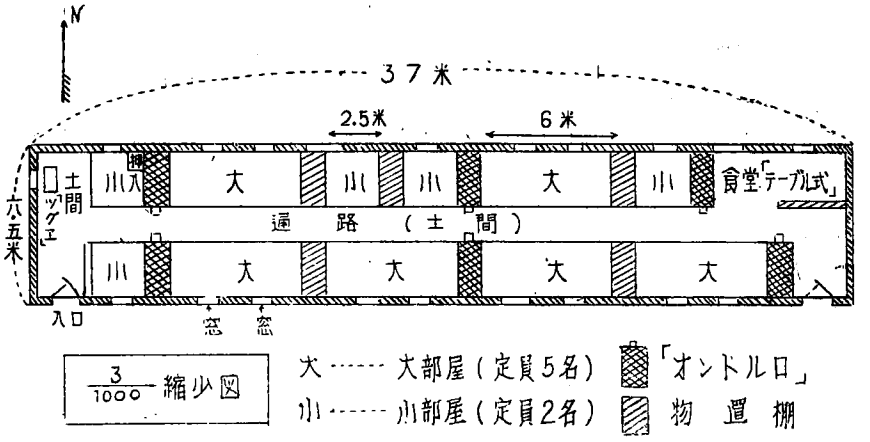
主食は半搗米であるが，副食物は三食共野菜や煮干の浮いてゐる味噌汁の一點ばりで，時に梅干澤庵の少量がそへてある程度である．間食の配給は全然なし．1日の總「カロリー」量は献立表にも示した通り大體3000以上といふ計算になつてゐるけれども動物性のものが皆無に近い事は長い月日，しかも激勞してゐる若人の「エネルギー」の根源としては頗る不完全と言はねばならない．後になつて訓練生が時々河魚をとつて來たり，野良犬を殺したりして勝手に食つてゐるのを知つて成程と思ひ，又現在現地の狀況から見てやむを得ないとも考へるが1人當り月19圓といふ相當の食費が支給されてゐるのであるから大いに檢討さる可きである．因に飲料水には專ら井戸水を使用してゐる．井戸は各訓練所に4箇所宛あり，孰れも掘井戸であつて井壁は6角形に組合はされた板で作られてゐる．徑は約2m，井戸の深さは18—22m，水深約2m．すべて露天で汲上裝置は「ロクロ式」である．(「ポンプ」は冬期に使用不能) 井戸の周圍の地質は粘土と腐葉土の混合と見なしてよく近隣に油田鑛山を見ない．晴天に檢水したが水溫は2度，清澄無臭，特別の味なく中性である．鐵及び「アンモニア反應」は陰性或は痕跡に陽性であつた．從つてこの地方は水には惠まれてゐると言ふ事が出來るがただ排水の設備に不充分な點多く，このまま放置すると早晩汚穢されて折角の天惠を臺無しにする事が豫想される．實際鐵及び「アンモニア反應」の痕跡にしろ陽性に出たのは最も大切な炊事井であつて炊事場及びすぐ隣にある浴場の排水が不完全といふ事が目についた．尙ほ冬期に於ても各井戸は渴水する事はないそうである．

（ハ）住　居

3訓練所共に低い丘陵の上にあるので敷地は通風採光に申し分なく，よく乾燥してゐる．例を泥秋訓練所にとつて訓練所全體及び訓練生の起居する寮舍の平面見取圖を示すと次圖の樣である．



寮舍見取圖



寮舍は內地の廠舍を思はせる樣な構造である．防寒上重大な意義を有する壁は外觀土より出來てゐて厚さは平均56 mmである．しかし土壁は內外各14.5 cmにすぎず，其の間は空洞になつてゐる．屋根は約20 cmの土壁に2.3 cmの厚さに野草といふ草をおいた草屋根である．零下50度にもなり得る土地であるからこの壁や屋根で充分な保溫が出來るとは考へられない．一棟の中に大部屋竝に小部屋が各6室ある．大部屋は6(m)×2.5(m)の廣さで定員5名，小部屋は2.5(m)×2.5(m)で定員2名となつてゐる．「オンドル」の焚口が6箇所あつて各室の床は炕式で「アンペラ」が敷いてある．床の高さは1 m，天井は屋根裏になつてゐる．窓は大部屋に2箇，小部屋に1箇ついてをり，各窓の廣さは幅1 m，高さ1.75 mで硝子及び障子の2重窓である．

以上の樣で定員に對する廣さ及び通風採光はまづ充分であるが建築法の拙劣なためか，新築して1年にしかならないと言ふのに壁や「オンドル」の諸所が壞れて居りやがて到來する嚴寒期を控へ憂慮される所が多い．のみならず「オンドル」の裝置不備のため冬期暖房をはじめると白煙が立ちこめて不衛生極るといふ昨年の經驗を聞いては一入この感を深くする．室內に蠅が頗る多く蚤も居るが蚊はすくなく南京蟲などはゐなかつた．

6. 訓練生の衛生狀態

衛生狀態の調査に就て殘念に思つたのは內原訓練所入所以後，時に應じ檢査した諸成績を記入されてをる可き筈の健康「カード」が利用されてをらず，或は保存されてゐないため，發育の狀況やマントウ氏反應の成績を追求し得なかつた事である．

(イ) 身長・體重及び胸圍

訓練生の身長，體重，胸圍は次表の通りであつて，同年輩の內地青年の夫と比較すると相當優秀である．

泥秋訓練所生徒身長，體重，胸圍表

年齢	身長 (m)			體重 (kg)			胸圍 (m)		
	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小
16	1.502	1.610	1.393	43.6	51.0	36.2	0.755	0.800	0.719
17	1.559	1.659	1.410	46.4	60.9	30.9	0.804	0.880	0.700
18	1.589	1.716	1.479	52.9	70.7	41.7	0.837	0.950	0.750
19	1.588	1.709	1.485	54.6	68.5	45.0	0.849	0.935	0.785
20	1.572	1.686	1.457	54.2	63.3	44.2	0.862	0.920	0.790
21	1.587	1.708	1.470	56.3	72.0	45.5	0.863	0.970	0.780
22	1.545	1.580	1.151	55.0			0.848	0.850	0.845
平均	1.580			53.4			0.843		

（ロ） 入院患者

奉仕時各訓練所醫務室へ收容されてゐた入院患者は次表の樣で，殆ど全部は結核性胸部疾患である．

泥秋	6名（肋膜炎 5，急性氣管枝炎 1）
圈泡	2名（肺結核 中1名ハ開放性ナル事判明）
大南山	2名（肺結核）

（ハ） 外來患者

一行の滯在せる10日間に外來を訪れ，吾々の診療した患者を次表に示す．

泥秋訓練所外來患者
（14/VI—23/VI）（三島）

病名	患者數	延人員
癤	11	95
外傷	8	36
胃腸炎	6	41
皮膚病（濕疹疥癬ナド）	5	32
氣管枝炎	4	20
中耳炎	4	26
「トラコーマ」	4	40
齲齒	3	3
外聽道炎	2	17
痔核	1	5
脚氣	1	5
計	49	322

圈泡訓練所外來患者
（14/VI—23/VI）（堤，長田）

病名	患者數	延人員
癤	10	70
外傷	8	32
下痢	7	20
中耳炎	5	5
胃炎	5	8
頭痛	5	5
「トラコーマ」	4	12
蓄膿症	3	5
痔核	2	4
脚氣	2	2
「關節ロイマチスムス」	2	10
外聽道炎	2	8
其他	4	15
	59	204

大南山訓練所多來患者
（14/VI—23/VI）（千坂，三島）

病名	患者數	延人員
「トラコーマ」	17	17
胃腸炎	15	20
結膜炎	6	6
外聽道炎	7	7
水虫	3	3
齲齒	2	2
蓄膿症	2	2
外傷	2	2
痔核	2	2
癒着性肋膜炎	1	1
氣管枝炎	1	1
扁桃腺炎	1	1
計	59	64

（ニ） 傳染病

傳染病に就て一言するが內地に於ける內地人と在滿邦人の法定傳染病罹患率を比較すると次表の通り滿洲に於ける罹患率が非常に高いので出發前吾々は防疫及び傳染病の治療には全力を傾けて奉仕したいと考へてゐた.

最近10箇年ニ於ケル法定傳染病內滿羅患率比較

病名	內地人口1萬ニツキ	在滿邦人人口1萬ニツキ	內地ヲ1トシタ比
「腸チフス」	8.39	53.6	6倍
「パラチフス」	1.00	11.8	12〃
赤痢 疫痢	2.89	68.1	23〃
「コレラ」	0.17	3.5	20〃
痘瘡	0.27	10.5	39〃
「ヂフテリヤ」	2.45	12.7	5〃
猩紅熱	0.42	3.25	78〃
流行性腦脊髓膜炎	0.15	1.7	11〃
「發疹チフス」	0.01	1.9	188〃
計	15.75	196.3	12〃

實際昨夏泥秋訓練所で一生徒が下痢を起し醫師のゐないままに可愛想な一點ばりで看護してゐた所，其の患者が赤痢であつたため數10名が傳染罹患し大恐慌を來したといふ事である．所が幸にも本年は3訓練所とも1名の傳染病患者發生をも見なかつた．しかし傳染病患者發生時の處置其の他一般防疫知識或は設備が不完全であつたので，それぞれ私見を述べておいた．

（ホ） 1年間の疾病調査

幸に大南山訓練所は1年を通じて訓練生の數に著明な增減なく（泥秋訓練所の如きは新舊取まぜて編成されたものであるので統計はとれない）平均230名で又醫師が常任されてゐて「カルテ」の整理が出來てゐるので之を例にとつて述べる．

疾病調査表

自昭和15年6月至昭和16年5月

病名＼時期	夏	秋	冬	春
「腸チフス」	2			
「アメーバ赤痢」	5			
心臟病			2	2
肋膜炎	2			5
「氣管枝カタル」			1	2
肺炎			4	1
爾他ノ呼吸性疾患	5	2	4	1
「胃腸カタル」	14	4	4	4
黃疸			1	1
虫樣突起炎				1
爾他ノ消化器疾患		1	4	1
關節炎			2	
「レウマチス」	1		1	1
腎臟病				1
痔		1	5	7
「トラコーマ」	2	10	3	15
結膜炎	1		45	1
夜盲症	1			
中耳炎			4	4
齲・齒	3	2	2	6
扁桃腺炎			5	1
癤	1	2	2	2
瘰疬	1			1
疥癬	6	3	2	2
濕疹		2	3	
凍傷			9	
外傷	6		6	5
「ガス中毒」			7	
結核性疾患			5	2
其ノ他	8	5	25	9
計	58	32	146	75

四季の別は冬春夏秋の順に患者數が多い．注目すべきは結膜炎並に「ガス中毒」患者が冬期に多發してゐる事である．之は勿論暖房裝置の不完全に歸因するものであつて將來の建築法に一大示唆を與へてゐる．

（ヘ） マントウ氏反應成績

北里研究所製2000倍舊「ツベルクン液」0.1ccを前膊屈側中央部皮內に注射し48時間後次の標準に從つて判定した．

發赤徑　自 0 mm 至 4 mm　陰　性 (−)

自 5 mm 至 9 mm　疑陽性 (±)

10 mm 以上陽性 (+)

次表の示す通り 3 訓練所とも陽性率は 31% 前後である.

マントウ氏反應成績
(千坂, 堤, 長田, 兒玉, 三島)

	被檢人員	陽性	陰性 ±	陰性 −	陽性率 (%)
泥秋訓練所	196	61	30	105	31.1
圈泡 〃	85	27	6	52	31.7
大南山 〃	210	65	20	125	30.9

圈泡訓練所で行つた成績について年齡的差異を見ると次表の樣である.

圈泡訓練所マントウ氏反應成績
(長田, 堤)

年齡別 (滿)	被檢人員	陽性	陰性 ±	陰性 −	陽性率 (%)
17	6	2	1	3	33.3
18	21	5	2	14	23.8
19	25	6	1	18	24.0
20	22	10	1	11	45.4
21	9	3	1	5	33.3
22	2	1	0	1	50.0
計	85	27	6	52	31.7

又滿 3 年前內原訓練所に於けるマントウ氏反應と現在の成績を比較し得たのは 3 訓練所の中大南山訓練所のみであつたが兩者間の變動を表示すると次表の樣である.

人數	內原		現在
8	+	→	±
4	+	→	−
11	−	→	±
23	−	→	+
陽性率	25.7%	→	30.9%

卽ち 3 年間に約 5% 陽性に轉化してゐる.

7. 訓練生の生活に對する希望

訓練生の希望の有のままを總括して見よう.

將來の志望

1. 農耕並に畜產兩方面の農場經營をやりたい.
2. 機械化農業, 畜產等で生產を豐富にし完備せる家を持ち平和明朗な理想的農村を建設したい.

醫療設備並に診療に對する希望

1. 訓練所には必ず醫師がほしい.
2. 外科醫又は外科に經驗のある醫師がほしい.
3. 正規の學校教育を受けた醫師がほしい.
4. 防疫方面に力を入れてほしい.
5. 虛弱者及び病弱者には勞働, 榮養の區別をしてほしい.

衣服に對する希望

1. 防寒衣服を改良してほしい.
2. 冬の下着をもつと支給されたい.
3. 靴類が不足である. 特に長靴を支給してほしい.
4. 夜具が不足で安眠出來ない.
5. 現在のままで我慢する外なからう.

住居に對する希望

1. 暖房設備を改良してほしい. 暖房をしても室內零下 20 度にもなるのはやり切れない. 冬期は煙が立ちこめて辛棒出來ぬ.
2. 新築して 1 年もたたないのに壁が落ちる樣な建築方法では仕方がない.

食餌に對する希望

1. 動物性食物がほしい.
2. 副食物があまりに單調である. 1 週間位で献立をかへてほしい.
3. 間食を時々はほしい. 甘い物がいい.
4. 果物を時には食べたい.

學業に對する希望

1. 無味乾燥な修身, 公民講話よりも生きた社

會問題を中心とした講話が聞きたい.

2. 農業, 畜産に關し平易な, しかも直ちに役にたつ書物がほしい.

3. 平易な衛生方面の本がほしい.

娯樂機關に對する希望

1. 劍道や野球の道具がほしい.

2. 雜誌が殆どないのは淋しい.

3. 蓄音器, 「ラヂオ」がほしい.

4. 酒保に似た娯樂室がほしい.

5. 巡廻映畫が年に1度は來るが, もつと度々來てほしい.

6. 軍隊で見る樣な慰問袋や, 慰問團を熱望する.

結婚に對して, どう思つてゐるか.

1. 農業の出來る娘と結婚したい.

2. 滿洲開拓の眞義を理解し, 土に親しむ身心健全な出來れば同鄕の女子と結婚したい.

3. 農村出身者で農業が出來看護婦産婆の免狀のある者と結婚したい.

4. 1人でやつて行かうとは全然思つてゐない.

其の他の希望

1. 武器をもつと充實してほしい.

2. 吾々の事業或は生活に對し一般の理解を熱望する.

以上の如く若き訓練生たちは現地の訓練生活を體驗して實に尤な切々の願望をもらした. 希望實現の日の早からん事を切望する.

8. 結 辭

以上で吾々の報告を終つたのであるが內容の皮相極る事は恥かしい. しかし重要國策たる開拓事業に一瞬時と雖も參加し得た事は大いなる欣びである. 訓練所の一般に就ては今後考慮されねばならない點の存する事は文中所々に述べておいた通りであるが, この大事業は今日尙ほ創業當初にありと言ふべく又年々急速度で改良されつつあるのであるから將來に大なる期待をかけてよからうと思ふ. 兎に角炎暑の日には故鄕のせせらぎを, 又嚴寒の時期には生家の炬燵を懷しみつつも, あらゆる私情を棄てて苦鬪し續けてゐる頼母しき若人達の多幸を祈るや切である.

(擱筆するに當り吾々一行の派遣に對し絕大なる御聲援と萬端の御指導を賜りし淸水學長はじめ諸先生に拜謝し; 特に醫事實習科長であり指導教官の主任教授たる北山先生に深甚の謝意を表す).